

「第34回全特連・発達障害教育セミナー IN 宮崎」が8月9日（火）10日（水）11日（木）の3日間の日程で開催されました。

県内外より各日120名以上の参加者があり、真夏の暑い宮崎は会場内も熱気に溢れていました。

第34回全特連・発達障害教育セミナー IN 宮崎
～学び合い、わかり合い、納得し合う～

【期日】平成23年8月9日（火）～11日（木）

【会場】宮崎市民プラザ

第1日目 8月9日（火）

開会式（10:00～）

1. 開会の言葉
2. 全日本特別支援教育連盟副理事長 植草学園大学教授 太田俊巳様 ご挨拶
3. 宮崎会場実行委員会 会長 浜松達生 挨拶
4. 閉会の言葉

午前（10:15～12:30）

講義「広汎性発達障害の理解と支援—二次障害と集団指導の問題に焦点をあてて—」
北九州市立大学教授 楠 凡之 氏

午後（13:30～16:30）

講義「自閉症のある子どものコミュニケーション支援」
香川大学准教授 坂井 聡 氏

第2日目 8月9日（水）

午前（9:00～12:00）

講義「特別支援教育の動向と学校における課題」
文部科学省特別支援教育課 特別支援教育調査官 石塚謙二 氏

午後（13:00～16:00）

講義「自立活動と知的障害・発達障害教育—子ども主体の取り組みを考慮して—」
全特連副理事長 植草学園大学教授 太田俊巳 氏

第3日目 8月11日（木）

午前（9:00～12:00）

講義「発達障害の理解と支援—療育支援は子育て支援から—」
日本発達障害学会会長 横浜市中部地域療育センター所長
原 仁 氏

午後（13:00～16:00）

講義「学習障害のある子どもへの文字の読み書きに関する学習支援」
鹿児島大学准教授 雲井三歆 氏

閉会式

1. 開会の言葉
2. 宮崎会場実行委員会 会長 浜松達生 挨拶
3. 閉会の言葉

（講演概要）

1日目開会式後の楠先生の講演では、「発達障害」のある子どもの成長過程での心情の変化や養育や学校教育の集団の中で過ごす事で生じる様々な二次障がいに着目してお話いただきました。

発達障がいの可能性が推測される子どもたちの中で、実際に診断を受けている子どもは一部であり、35人学級の中で見つけることの難しさ。本人が一番困っており未診断のまま手だてが無か

ったことが二次障がいにつながっていくこと。成長の節目での手だての機会。第一に見通しを持たせることで、その中で頑張る力を引き出すこと。自己肯定感や受容された感覚を積み上げる手だての工夫の重要性等話をされ、特性の見極めと支援の重要性について新たため深く考えさせられました。

午後の坂井先生の講演では、自閉症のある子どもを伸ばしていくために必要な要素を3つの軸に例えて、支援の力と周囲の理解が本人の力を伸ばす大きな軸となること。パニックや自傷行為には水中の氷山程膨大な背景が存在する事。視覚支援の方が理解しやすい理由。関わる時のあり方等について説明されました。そして、学校や社会生活でよく見かける光景、例えば「目を見て話さない」を言葉のままに実行する事が矛盾している事や「集中盲」の体験実験の他、誰もが特性といえるものを持っている事について参加者を巻き込みながら講話を進められました。

2日目の午前中は石塚謙二先生の講演で、特別支援教育の流れと現状について全国の統計を資料としてお話いただきました。また、新学習指導要領についての解説と障害者基本法改正案が8月5日に国会を可決通過したことを受けての解説。教育現場でのエピソードや課題点まで幅広い視点からお話いただきました。質問にも答えて頂きました。

午後は全特連副理事長、植草学園大学教授 太田俊巳先生の講演でした。自己紹介では今回宮崎県に初来県されたことで「全県踏破」なされたとの事でした。自立活動が特別支援学校における教育編成上の独自の領域であり、40年の歴史を持ち、重みを持つ指導領域であること。指導計画の作成に於いては実態把握が最も重要であり、子ども主体の授業を構築していく事が自立活動の充実につながるということ。自立活動は医療的な視点と関係して実践されていくが、教育的立場から子どもに対応すべきとの考えを述べられました。



太田俊巳先生の講演より

3日目の午前中は原 仁先生の講演で、療育センター所長としての視点から、その役割として子どもの障がいに気づき学校へ受け渡すこと、子どもの家族、特に母親の子育て不安やメンタルヘルスを重要視していること。そして心理職やソーシャルワーカーによる育児支援への取り組みを紹介され、ご家族の心情従来型の療育センターに子育て支援センター機能を付加していきたいという原先生の願いと発達障がいということについて、そのとらえ方や実態について大変解りやすく話して下さいました。

午後の雲井三敏先生の講演では、子どもの読み書きの認識の仕方を分析したり推測したりし、支援の仕方を子どもの学習段階に呼応して段階的に組み立てていった事例の提示がなされました。それによって子どもが学習能力を身につけていく過程や、更に失っていた自信を取り戻した事を、子ども自身の言葉により紹介されました。参加者も記憶実験や地図のクイズ等を体験して感覚統合や我々の脳の認識の仕方の気づきを得た講演でした。学習障がいのある様々な子どもの支援について迷われている多くの先生方から質問もたくさん出され、その一つ一つに丁寧に答えて下さいました。お隣の鹿児島大学の先生ということから、今後の益々のご活躍を期待致します。

いずれの講演においても、子どもの特性を考慮した学習支援の考え方や事例が中心にしながらも、本人の安心感や自己肯定感、達成感といった心情を大きく育てていくことが成長しを支援する上で最も大切なことだということを伏線伝えて下さっていた印象がありました。3日間に渡り大変貴重な講演を聞くことが出来ました。

会場のロビーでは、書籍販売も行われ、講師の先生方の著書も多数並べられました。

3日間盛況の内に無事セミナーを終えることが出来ました。

ご参加された皆様、ありがとうございました。



参加された皆さん非常に熱心に聞き入っておられました。

